

まちごとまきこむEXPOマガジン

万博世代

日本語 / English

特集

万博をつくる、たのしむ、のこしていく

新しい万博世代、はじめました

EXPO GENERATION

TAKE FREE

vol.

01

2025.5

一番面白い
万博世代に、
なりたい。

「万博まだ行ってない」
「何やってるか分からんし」
そんな声を聞いた時、もったいないと思う。

1970年の大阪万博を
今も誇らしげに語る人たちがいるように、
私たちにも次の“万博世代”になる
チャンスが巡ってきているのだから。

このフリーペーパーは、
万博をつくる人も、楽しむ人も、
行かなかった人まで含めて
「2025年の万博世代は面白い」と
語り継がれるような価値を残すため、
自分たちで勝手につくっています。

みんなが、それぞれの視点で
自分なりの面白がり方や
社会的な意味を見つけることで、
万博の可能性は、まだまだ広がる。

今なら間に合う。
この184日が、この先何度でも語り合える
大切な時間になりますように。

特集 新しい万博世代、はじめました

万博をつくる、たのしむ、のニコトコソク

大学院生
橋本沙知
大阪在住/20代 / denotexpo

万博が終わっても
一緒に挑戦できるような
世界の仲間と
出会えたらいいな

卒業する前に万博世代

- 4 QUESTIONS
- 1 万博へ関わることになったきっかけは？
 - 2 心に残った出来事は？
 - 3 個人的、万博ココがおすすめ！
 - 4 改めて、万博って何なんでしょう？

過去に大阪で万博が行われてから、あっという間に55年。2025年、大阪の街には再び万博の風が吹いている。この場をつくるために夢洲の会場で試行錯誤した人、これを機に改めて街での活動や自分自身の中にある好奇心・情熱を見つめ直した人……きっと多かれ少なかれ誰もが何か感じるところがあったはず。そんな“今”この時代を生きる人々を、私たちは万博世代と名付けたい。“新しい”万博世代の活動や、そこへかける思いをみんなに伝えたい。

大学院で情報科学を専攻し、AIを活用した研究に取り組む。その専門性を生かし、地域を楽しみながら挑戦できる謎解きアプリの開発をはじめ、テクノロジーで地域の魅力を引き出す活動に取り組む。今回の万博では、会場装飾プロジェクト「EXPO WORLDS」の現場ディレクションを担当。他にも、地域と夢洲をつなぐ「EXPO 酒場」などの企画・運営に携わっている。

1 知人に誘われて万博関連イベントのお手伝いをしたこと。漠然としたイメージを持っていましたが、現場で本気で万博に向き合う大人たちの姿を見て、私も何か挑戦してみたくくなりました。

2 私の活動を見てくれた学生が、「私も何かやってみたい」と声をかけてくれたことです。万博をきっかけに、思いが人から人へ伝播していく。そんなつながりの広がりを実感しています。

3 おすすめのご飯はマレーシアのロティチャナイ、ドイツの路面店のソーセージ&ビール。そして韓国館のスンドゥッチゲ。食を通して世界各国を旅できるのも、万博ならではの楽しみ方だと思います。

4 新しい技術や文化、多様な人々がぎゅっと集まる場であり、チャンス。場。世界中の感性や価値観を浴びながら、自分の中の芯を育てている。

まちごと万博にする万博世代

ロックバンド「愛はズポーン」ボーカリスト

儀間建太

大阪在住/30代

子供の発想も
大人がカタチにした
万博を作りたい

音楽活動のほか、空間演出や立体造形のディレクション、イベントプロデュースなども担う。活動拠点のアメリカ村で音楽やダンスなどワークショップを展開。「まちごと万博」の企画・演出をはじめ、イベント「人間審命祭」のプロデュースも手がける。

- 1 きっかけは太陽の塔。衝撃と恐怖心、好奇心を駆り立てられ、日本で万博が開催される時はそこで生きた証を残したい、そう思っていました。
- 2 アメ村の商業施設「BIG STEP」と共催でイベント「自分万博」を開催したこと。自分たちが主催する万博のメインキャラクターを描くワークショップで、子どもたちによる自由な発想がおもしろく、子どもが手がけた万博へ遊びに行ってみたく。
- 3 バビリオンやステージ、トイレなど、今の形になった意図を調べながら歩くことをぜひやってほしいです。
- 4 テーマパーク。家族でお出かけレベルぐらいがいいと思います。子どもは変な建物を見たり普段味わえないような体験をできるとワクワクしますよね。それこそが万博だと思っています。



「愛はズポーン」として「EXPO 共鳴フェス 人間審命祭」に出演予定



「EXPO WORLDS」のプロジェクト「Co-MYAKU'25」の制作現場(東ゲート)



「HH EXPO in 大阪梅田鉄道フェスティバル」で、オランダバビリオンチームとイベントを企画

Ken-ya Gima

Sachi Hashimoto

EXPO 2025 は始まったばかり

残念石の万博世代



世界中の人々が集まる万博で自然や石と共にある建築の可能性を話したい!



Yurika Takemura

建築家 竹村優里佳

奈良、サンフランシスコ在住/30代/Yurica Design & Architecture 主宰

奈良と海外を拠点に歴史や既にあるものへの再解釈を着想にテクノロジーと融合させ未来にひらき、自然と共にある建築の在り方を目指す。今回は、若手建築家が手がける万博会場内のうちの1施設を設計。残念石を活用したトイレのタイトルは、「Trace of Earth / 地球の形跡」。(共同設計者に小林広美、大野宏)

- 2022年に40歳以下の若手建築家を対象としたコンペティションに応募し、約270組の中から優秀若手提案者として提案が採択されたこと。
- “巨石を運ぶ”という誰かの金銭的な利益にならない行為に対して、400年前の大坂城再建時に祭りのように石が運ばれたのと同様に、さまざまな人たちがワクワクしながら当事者として協働して下さったこと。
- 400年前に切り出されたものの何らかの理由で大阪まで辿り着かなかった「残念石」が、400年越しに大阪の夢洲に来ています。マグマが固まってできた花崗岩の地球の表情と、矢跡と呼ばれる切り出した痕跡が石に刻まれているので、両方を実際に見て楽しんでいただけると嬉しいです。
- 今既にあるものへの価値に改めて目を向け、建築という場を介して、未来に向かって考え始めることの始まりと挑戦の場所。夢洲の会場内だけでなく、残念石が切り出された地域(京都府木津川市大野)にも会場には来なかった多くの残念石があり、両方に目を向けて足を運んでいただきたい。



©Yosuke Ohtake

勝手にやりすぎる万博世代

変なプロデューサー 大阪まちごと万博共創プラットフォーム 協働プロデューサー EXPO WORLDS プロデューサー

花岡

大阪在住/40代/株式会社人間、demolexpo

夢 洲だけでなく街のおもしろい場所や人、活動に光を当てた「まちごと万博」を主催するほか、夜のパビリオンやEXPO酒場、大阪・関西万博 会場装飾プロジェクト『OPEN DESIGN 2025「EXPO WORLDS」』をプロデュース。

開会式はリングで 1万人の金踊りをやりたい



Hanaoka

- 山根がやりたい!と言ったため、当時の機運醸成の活動がダサくおもしろくなかったため、怒りを原動力に活動がはじまった。
- 万博誘致から活動をしてきた7年間、多くの人に出会い、いろんな人の人生を狂わせてしまったような……。休学する人、大阪に引っ越しする人、恋愛する人、万博専門チームをつかった人など、もししたら、自分自身が一番狂わされたのかも知れません。
- 会場の装飾や音楽は大資本が仕掛けたのではなく、大阪の小さな会社やクリエイターががんばって作ったことをこっそり伝えたい。あと、正座をしているミャクミャクの足の長さにも注目。
- 自分たちがやりたいことが実現できる実験装置。こんな小さくてよくわからないチームでも、大舞台に関われます。だからこそ、諦めずおもしろくしていきます。合言葉は、「でも、やろう。」



「EXPO WORLDS」が手がけた、高さ約4メートルの「ミャクミャクモニュメント「いらっしやい」」

オフィシャル仕事したい万博世代

アーティスト イラストレーター

上田バロン

大阪在住/50代/FR/LAME MONGER

キャラクターやイラストレーションを手がけ企業やメジャーIPとコラボするほか、パブリックな空間へも作品を残してきた。今回、JR西日本グループ運営の万博公式ストアでユニフォームに関わる。JR西日本グループの関西万博プロモーションなどでも展開されている。

- 「万博に関わりたい」とチャレンジを繰り返すも、なかなかチャンスが掴めない状況下、10年来の知人であるアーティストマネジメントの方から連絡が、念願の切符を手に入れました。
- 作品でJR西日本と日本、関西らしさをめいっぱい表現し尽くしたことで、「JR西日本グループ全体プロモーションでも活用したい」と社長の心が動いたこと。作家冥利に尽きる場面でした。
- 点にする、たくさんのアート。あとはやっぱり、僕が関わった万博公式ストアユニフォームが一押しです!
- 新たな発見や価値観を変えるきっかけを身える大規模な装置。変化や挑戦を恐れず、自分ごとにして楽しんでアクセスした人だけがそれぞれに感じ、語れるものだと思う。



©WEST JAPAN RAILWAY COMPANY / BARON UEDA



Baron Ueda

作品を通してさらに万博に「系譜が生まれた方がいいなあ」

緑で演出する万博世代

植木屋 ランドスケープデザイナー 谷向俊樹

池田市在住/30代/緑向ガーデン

池 田市にて植物の生産業、造園業、ランドスケープ設計、そして植物を用いた装飾など、植物に関することへ取り組む。大阪・関西万博では、ドイツ館、オーストリア館、UAE館、EU館、パナソニック館にて植栽工事や植栽計画を担当した。



Toshiki Tanisaki

他のパビリオンに開かれている海外のランドスケープチームと話をしてみたい!!

- 南アフリカ在住時に生まれた縁が発端となり、ドイツ館の植栽を担当することに。ドイツチームと飲みに行ったところ、居酒屋に偶然オーストリアチームが、そうやって縁が広がっていきました。
- 海外の建築家、ランドスケープチーム、クリエイティブチームとの協働作業。みんなとポジティブに接している人は物事がうまく進んでいて、人として「いい人」でいることはとても大事だと感じるようになりました。
- 海外の方と交流すること!
- チャンスの境。海外の人との交流は貴重です。万博に関わる日本の人も興味深い方ばかり。この機会、有意義に過ごしていきたいです!



3年自力で伝えた万博世代

「大阪・関西万博応援マガジン EXPOST」編集者 竹田徹

大阪在住/60代/サンケイ総合印刷株式会社

万 博を盛り上げるべくフリーペーパー「大阪・関西万博応援マガジン EXPOST」を3年前に創刊(Vol.8が最終号)。4社共同で取り組み、元新聞記者としての経験を活かして取材・記事執筆からレイアウト、印刷まですべてを自分たちで行っていた。



Toru Takeda

人生一度は万博だ。



「EXPOST」最終号。紙での刊行は終了した現在、SNSで情報を発信中

- 万博関連のビジネス展示会への出展。
- 「万博は人と人のつながりを構築できる機会」。インタビューした、ある海外パビリオン関係者のこの言葉が今でも忘れられません。
- 複数の国が出展するコンモズ館。ジャマイカは世界一速い男、ウサイン・ボルトさんの等身大人形のように、各国が一番の売り物を展示しています。スタッフとの距離感も近い!
- 人生を左右するイベント。1970年の大阪万博に大きな衝撃を受けました。一人でも多くの子供にも、ここで、「未来」と「世界」について学んでもらいたいです。

誰もが万博世代としての可能性に満ちている



夢洲に続々と集まる、世界の万博世代のみなさん。彼らが万博へ込めた想いとは？パビリオンのこと、自国のことを紹介してもらうべく、各国のキーパーソンたちにインタビューをしました。

The world's Expo Generation gathers at Expo 2025 Osaka, Kansai — what dreams do they bring? Meet the people behind the pavilions, their countries, and their visions.



たっぷり読みたい人はコチラ！



Switzerland スイス

Portugal ポルトガル

Interviewee



スイス連邦陳列区域政府代表
マヌエル・サルクリ

首都・ベルン出身。中心地から川まで5分、森まで10分、約1時間で山まで行ける自然が身近なベルンをこよなく愛す。2005年に開催された、愛・地球博では、初めてスイスパビリオンのディレクターを務めた。

Swiss Pavilion Govt. Rep.
Manuel Salchli

Born in Bern, the capital. He loves his hometown, where nature is close—just 5 mins to the river, 10 to the woods, and an hour to the mountains. In 2005, he served as the director of the Swiss Pavilion for the first time at Expo 2005 Aichi.



パビリオン ディレクター
ベルナルド・アマラル

Interviewee



海沿いの街・カシュカイシュ出身。ポルトガル首相官邸でのキャリアを経て、大阪・関西万博ディレクターに。「このチャンスを逃す手はない」と、迷わず飛び込んだ。複数の言語を自在に操る、言葉好きな一面も。

Pavilion Director
Bernardo Amaral

Born in the coastal town of Cascais. After a career at the Prime Minister's Office in Portugal, he leapt at the chance to become Pavilion Director for Expo 2025 Osaka, Kansai. A passionate language lover who speaks multiple languages fluently.

ハイジが誘う現代スイス。バブルの外観の答えは中にあり！

スイスと聞いて思いつくものといえば……「ハイジ」と思ったみなさん、ようこそ！なぜならスイスパビリオンのコンセプトは、ずばり「ハイジと共に、テクノロジーの頂へ」だから。「彼女の魅力は、好奇心旺盛で人々を結びつけ、さらに自然に深い関心を持っているところ。その魅力をキーにしたい」とサルクリさん。「2ヶ月ごとに『人間拡張』『生命』『地球』とテーマを変え、スイスが培ってきた技術革新が、どのように持続可能な社会に貢献できるかを紹介します」

技術を発揮するために必要なのは発想力だが、その豊かさもしっかりと感じられる。サルクリさん曰く、「今回は、過去にスイスが手掛けてきたパビリオンの中で最も軽量化されている」そう。4つの展示スペースがあるにも関わらず、なんと450キロしかない。「大きなシャボン玉のマシンを開発し、光と合わせたインスタレーションを演出します。来場者は、自分たちの夢や希望を込めたオリジナルのシャボン玉を飛ばすことができるんです。しかもそれは消えずに、次の日でも見えることができます」子どもから大人までたくさんの方の願いが詰まったシャボン玉が宙を舞うスイスパビリオン。外に出る頃には、私たちがきっとハイジのように好奇心で溢れ、未来がより楽しみになるはずだ。

Heidi Leads You Into Contemporary Switzerland — The Bubble's Secrets Lie Within!

When you think of Switzerland, do you picture "Heidi"? If so, welcome—because the Swiss Pavilion's concept is "From Heidi to High-Tech." "Heidi's charm lies in her curiosity, her ability to connect people, and her love for nature," says Mr. Salchli. "We want to highlight that spirit." The pavilion will change themes every two months—Augmented Human, Life, and Planet—to show how Swiss innovation supports a sustainable future. Despite having four exhibition zones, the entire structure weighs only 450kg, making it the lightest Swiss pavilion ever. Visitors can interact with a giant bubble machine that combines light and motion to create a mesmerizing experience. Each bubble carries their dreams and hopes, and won't disappear right away, remaining visible even the next day. By the time we step out, we may find ourselves full of curiosity, just like Heidi!



▲ハイジ・カフェのおすすめメニュー。キットカットを使った「ラズベリー&ほうじ茶のムースケーキ」
Heidi Café's top pick: Raspberry & Hojicha mousse cake with KitKat!

ハイジ・カフェについてもっと教えて！ What can you eat in the Heidi Café and Shop?

屋上のハイジ・カフェで、スイス×日本のフュージョン料理を味わって欲しいです。スイスのスイーツ「ダブルクリーム」をヒントにした「キットカット ダブルクリーム＆ラズベリー添え風味」は、お土産にもどうぞ！

We'd love you to try Swiss-Japanese fusion dishes at the rooftop Heidi Café! Inspired by Swiss "double cream", our KitKat with double cream & raspberry is a perfect treat—and a fun souvenir too!

スイスを象徴すると思う言葉は？ What's one word that symbolizes Switzerland?

「Tzama shita (ツァマンシタ)。一緒に立ち上れば強くなるという意味です。スイスは人口の25%が働きに来た外国人。異なる背景を持つ人々が共に立ち上がることが大切、という思いがあるんです。」

"Tzama shita." It means "We're stronger when we stand together." With 25% of the population being foreign workers, unity across differences is at the heart of the Swiss spirit.



▲パビリオン内に広がるシャボン玉アート
Bubble-inspired art spreading throughout the pavilion.



▲景色を望めるハイジ・カフェ Heidi café with scenic views.

ベルン暮らしの思い出といえば？ What's your favorite memory of living in Bern?

夏になると、街を囲む川を泳いで通勤するのが定番なんです。私はスーツを防水バッグに入れて、職場へも帰宅の時もぶかぶか泳いで移動。行きも帰りも水の中！川泳ぎ通勤は、ベルンの夏の風物詩なんです。

In summer, it's totally normal to swim to work! I'd pack my suit in a waterproof bag and float down the river, both to the office and back home. Believe it or not, river commuting is a beloved summer tradition in Bern! It's fun, refreshing, and so uniquely Swiss.

パビリオンについてもっと教えて！ Tell us more about the pavilion!

パビリオンには、リサイクル漁網やサステナブルな素材が使われていて、建物の78%以上を再利用できます。この波のようなロープは、朝日や夕陽があたるとまた違った表情を見せ、とってもロマンチックなんです。

We use recycled fishing nets and other sustainable materials. More than 78% of the pavilion's structure can be reused after the Expo. And the way the ropes sway in the breeze—at sunrise and sunset—it's incredibly romantic.

▼パビリオン内ショップでは、ポルトガルの工芸品にも出会える
At the store in the pavilion, you can also find Portuguese handicrafts.



▲プロジェクションマッピングによる幻想的な海に囲まれるひと時
A moment surrounded by the fantastic sea with projection mapping.

カシュカイシュはどんなところ？ What is your hometown, Cascais, like?

バカンス先としても人気な街です。昔は週末によくタコ釣りに行っていました。タコは力が強いし、釣るのはすごく難しいんですよ。小さな頃、岩の隙間に棒を突っ込んだら、もう1匹のタコが現れて、僕の顔に吸い付いてきて！忘れられないタコとの戦いです(笑)

It's a popular vacation town. I used to go octopus fishing on weekends when I was younger. Octopuses are strong, and catching them is really tough! One time, when I poked into a crevice with a stick, another octopus appeared—and it grabbed onto my face! I'll never forget that octopus battle. (laughs)

併設レストランの看板メニューは？ What's the highlight of the pavilion's restaurant?

タコをはじめとした海鮮系の郷土料理や、私も大好きなカスタードクリーム入りエッグタルト「バステル・デ・ナタ」などが楽しめますよ。ポルトガルワインと一緒に味わってください！テイクアウト専用窓口もあります。

You can enjoy traditional seafood dishes featuring octopus, as well as my personal favorite—the custard cream-filled egg tart, Pastel de Nata! And don't forget to pair them with Portuguese wine! There's also a separate window for takeout.

大航海時代から現在と未来 海と紡ぐ、友情の物語

国土の西と南が大西洋に面したポルトガル。1998年のリスボン万博では、海洋問題を議題に取り上げるなど、海へ熱い眼差しを古くから投げかけている。ベルナルドさんは「訪れた方へ届けたいのは、海の重要性、そしてポルトガルがその持続可能な未来に向けて真剣に取り組んでいること」と語る。『海洋：青の対話』というテーマを、2つの展示エリアで展開する。

「最初のエリアでは、日本との500年に渡る交流の歴史と未来へ続くストーリーを辿ります。南蛮屏風や『パン』『ボタン』などポルトガル語由来の日本語を紹介。言葉と文化が交差する時間旅行をお楽しみ下さい。さらに海洋保全活動や海の未来に向けた技術を披露します。次のエリアではプロジェクションマッピングの世界へ。美しくも、脆さを抱える海の姿を、目の当たりにしてほしいです」海が持つ可能性を目を輝かせながら話すベルナルドさん。「設計は隈研吾さん。吊るされた約10,000本のナイロンロープが風に揺れる姿は、美しい波のよう。ポルトガルには『サウダージ』という、大切な過去への恋しさや懐かしさを表す言葉があります。万博が終わって日本を離れたら、私はきっとサウダージを感じるでしょう」海に込めたポルトガルの、そしてベルナルドさんの情熱が、今パビリオンを満たしている。

From the Age of Discovery to the Future A Story of Friendship Woven Through the Ocean

Facing the Atlantic Ocean to the west and south, Portugal has long turned its gaze toward the sea. At the 1998 Lisbon Expo, the country spotlighted ocean issues. "The most important message I want visitors to take away is that Portugal is fully committed to the importance of a sustainable ocean," says Bernardo. The Portugal Pavilion, under the theme "Ocean - The Blue Dialogue," is divided into two areas. "In the first, we trace 500 years of exchange between Portugal and Japan—from Nanban screens to words like pan and botão that became part of Japanese. It's a cultural time travel. We also highlight our ocean conservation efforts and future-facing technologies. The next area invites visitors into immersive projection mapping. I hope people will see the ocean's beauty—and understand how fragile it has become."

Bernardo speaks about the ocean with shining eyes. "The pavilion was designed by Kengo Kuma. About 10,000 suspended nylon ropes sway like waves. In Portuguese, saudade is a word for longing or nostalgia. After the Expo, I know I'll feel saudade for Japan." The passion of Portugal—and of Bernardo—fills every corner of the pavilion.

言ってみよう！
世界の乾杯
Say it out loud!
Cheers Around the World

スイス編 - Swiss Edition / 4つの公用語を持つスイスならではの！

- 「Prost (プロスト)」…ドイツ語 | German
- 「Santé (サンテ)」…フランス語 | French
- 「Salute (サルテ)」…イタリア語 | Italian
- 「Viva (ヴィヴァ)」…ロマンシュ語 | Romansh

Photo: ©FDFA, Presence Switzerland

言ってみよう！
世界の乾杯
Say it out loud!
Cheers Around the World

ポルトガル編 - Portugal Edition

- 「Tchim-tchimt (チン-チン)」
- 「Saúde (サウヂ)」

まちのパビリオン

大阪の街中で開催されるイベントや活動を「まちのパビリオン」として紹介。夢洲だけでなく、キタやミナミをはじめとした各所で何かが起きている！

EVENT

2025/4/4 Fri. - 7/31 Thu.

SPICE DIVE! OSAKA

～世界と出会った大阪スパイスカレー～

会場 Osaka Metro沿線の協力店舗

大阪の人気スパイスカレー店が「世界の料理」をテーマにオリジナルメニューを考案。創意工夫に満ちたひと皿に出合える、デジタルスタンプラリーを開催中！31店舗を巡る、世界旅行はいかが？



詳細はこちら！



2025/5/31 Sat.

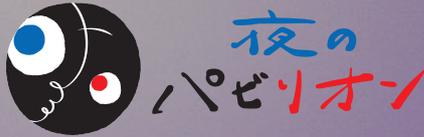
天王寺動物園でジャガーと対決

会場 天王寺動物園

ジャガーの生態を学び、SDGsな素材を使っておもちゃ作りに挑戦！ジャガーが遊んでくれたら子どもたちの勝ち。特別なチャレンジをみんなで楽しもう！



詳細はこちら！



万博を機会に大阪を訪れる海外の人たちや、会場で働くスタッフ、観光客、そして大阪の街の人々をつなげる場として考え出された「夜のパビリオン」を楽しもう！



大阪の夜をおもしろくする100人と出会うプロジェクト「OSAKA YORUMON」とは？

大阪の観光資源である「人」にフォーカスをあて、愛すべき街の顔役を「OSAKA YORUMON」として認定！大阪の街を、“人”を起点にガイドする「大阪夜の顔図鑑」が完成しました。彼らを紹介するのは、長年街で遊び尽くし、その魅力を伝えてきたYORUMON GUIDEたち。「大阪夜の顔図鑑」専用アプリを片手に街へ繰り出そう。



What's EXPO SAKABA?

EXPO 酒場本店とは？

万博期間中、世界と日本が交替わりで集う、キタとミナミの拠点酒場。飲食や音楽で万博気分を盛り上げます！
A global bar for Expo-goers. Food, fun, and new faces await!



[Instagram]
@expo_sakaba



スケジュール Schedule

キタ KITA (NORTH) 場所 ルクア大阪 B2F LUCUA OSAKA B2F (5PM-11PM)

- 5/12 Mon. - 5/18 Sun. EXPO 酒場 全国大集合! Gathering of Local Flavors!
- 5/19 Mon. - 5/24 Sat. EXPO 酒場キタ本店×福島万博 EXPO SAKABA KITA×FUKUSHIMA EXPO
- 5/26 Mon. - 6/1 Sun. キルギス、好きキルギス(仮) Kyrgyz, Too Much Love!
- 6/2 Mon. - 6/8 Sun. Taste of Queensland (オーストラリア・クイーンズランド州 食のイベント)

ミナミ MINAMI (SOUTH) 場所 心斎橋PARCO B2F SHINSAIBASHI PARCO B2F (5PM-11PM)

- 5/12 Mon. - 5/18 Sun. at home cafe x SHINSAIBASHI PARCO
- 5/30 Fri. EXPO Kanpai Night
- 6/7 Sat. - 6/8 Sun. Taste of Queensland (オーストラリア・クイーンズランド州 食のイベント)

こんでる？
混 空
すわれる？

御堂筋線 中央線

アプリでチェック!

号車	混雑状況	設備	温度
1	前 大変混雑	🚿	24°C
2	前 混雑	🚿	25°C
3	前 やや混雑	🚿	24°C
4	前 ゆったり立てる	🚿	24°C
5	前 空席あり	🚿	26°C



車両の混雑がわかる、おでかけに大活躍!



Osaka Metro 公式アプリ イーメトロ



ダウンロードはこちらから

編集後記 文/山根シボル

誘致活動の頃から約7年、万博に執着し続けられたのは「EXPO'70」が大阪の「カルチャー」として語り継がれたからだと感じます。2025年にも大阪に「カルチャー」を残すチャンスがあると信じ、胸を張って万博世代を名乗ります！

万博世代を応援しています



協賛：真生印刷株式会社、新生紙パルプ商事株式会社
協力：サンケイ総合印刷株式会社、大阪まちごと万博共創プラットフォーム



万博世代 vol.1 2025年5月13日発行

発行 一般社団法人 demoexpo
〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀1-12-11 愛昇ビル4F Email: info@demoexpo.jp

デザイン：桶川真由子 (Neki inc.) 編集・執筆：小島知世
表紙撮影：木村華子 コピーライティング：久岡崇裕 (株式会社 parks)
翻訳：宮外真理子、笹貴淳子 万博世代編集部：笹貴淳子、山根シボル

●本誌掲載のデータは2025年4月末現在のものです。 ●本誌掲載の情報は予告なしに変更になる場合があります。 ●本誌掲載の記事、写真、イラスト、デザインの無断転載を禁じます。

配架先
募集中!

[配架場所]

- ・EXPO 酒場キタ本店
- ・EXPO 酒場ミナミ本店
- ・Osaka Metro 梅田なんば天王寺など主要駅20か所
- ・THE DECK
- ・その他 大阪府下公共施設